

床材施工の手順



下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

下地・使用環境の確認

下地の確認

- 下地が十分に乾燥※して強度があること
- 不陸・ざら目・突起物がなく表面が平滑であること
- 粉ふき・ひび割れなどがないこと
- 油・塗料・ワックス・塵埃などがないこと

使用環境の確認

- 水の使用頻度
- 温度変化
- 結露の有無
- 重量物の設置、運搬

※下地の厚みや環境によって乾燥時間は異なります。

工法の確認(接着剤、副資材の選定)

- 一般工法
- 特殊耐水工法
- 継目止水工法
- 床暖房工法
- 耐水工法
- プールサイド工法
- テープ工法

施工前の準備

下地の調整および補修

- 乾燥度の確認※
- 強度の確認
- 段差・凹凸の補修
- 油・塗料・ワックスなどの除去
- 古い接着剤の除去
- ドア開閉の干渉確認

材料の手配・搬入

- 工程表・割付図作成
- 床材・接着剤・副資材などの手配・搬入

保管

- ① 5℃以下にならないこと
- ② 急激な温度変化がないこと
- ③ 水濡れのないこと

※下地の厚みや環境によって乾燥時間は異なります。

施工

- ① 5℃以下にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

- | | | | |
|-----------|-------------|-------------|----------|
| 1 作業環境の確保 | 5 接着剤の塗布 | 8 壁際の裁断 | 11 継目処理 |
| 2 清掃 | 6 オープンタイム | 9 圧着 | 12 端部処理 |
| 3 割り付け | 7 張り付け・エア抜き | 10 養生(1~2日) | 13 清掃・点検 |
| 4 仮敷き | | | |

養生(2~3日)

- ① 5℃以下にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

- 保護シート敷き
- 重量物の運搬禁止
- 通行の禁止

初期メンテナンス

引き渡し

注) 実際の現場においては、施工における様々な状況、条件が想定されます。各現場に合わせた適切な対応をおこなってください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・副資材
P.315

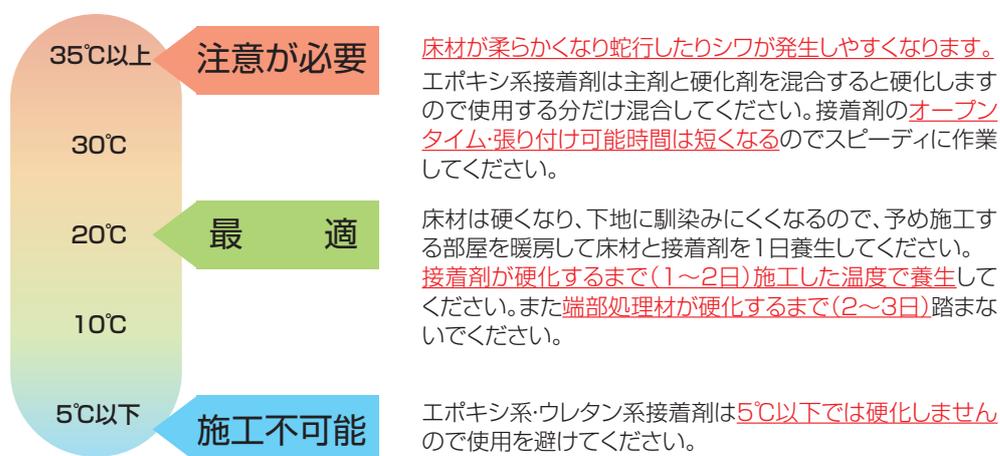
副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

1. 下地・使用環境の確認

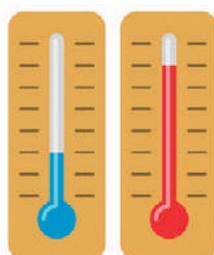
床材の仕上がりの良否は、下地と作業環境によって左右されるといっても過言ではありません。床材は温度の変化、乾湿の繰り返しなどによって、寸法の変化、いわゆる呼吸をしています。このような床材の動きを接着剤で強固に下地と接着するためには、**床材の動きに耐え、接着剤の性能を十分に発揮させ得る下地**が必要です。またプラスチック系床材は低温になれば硬く、高温になれば柔らかくなる性質があり、**接着剤も低温になれば硬化が遅くなる**性質があります。このように床材が下地に馴染みやすく、**接着力を早く発揮させる環境(温度)作り**も必要です。床材の施工では多様な下地の状況に最も適した対処方法と、施工環境に関する知識が不可欠であります。ここでは、施工する各種の下地が備えていなければならないポイントと対処方法、及び施工環境について説明します。

① 使用環境



5°C以下にならないこと
急激な**温度変化**がないこと
水濡れ(降雨など)がないこと

5°C
以上



試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

② 下地

- 下地の突起物をディスクグラインダーやスクレッパーで削り取って平滑にしてください。
- 砂や塵埃などを除去してください。
- ワックス・油分・塗料などは除去してください。



ディスクグラインダー



スクレッパー

- (ワックスは、できるだけ空拭きで除去した後、リムーバーもしくは溶剤を使用してふき取ってください。油分や塗料は、硬化していなければできるだけ拭き取り、硬化していればできるだけ削り取って、溶剤を用いて除去してください。)
- 踏み面と蹴込み面との角度が80度以下の階段には施工できません。(タキステップ)
 - 凹凸の大きい骨材仕上げやゴムチップ仕上げなどの場合は、撤去してください。
 - 平鋼板下地の場合、十分な防錆処理(上塗り塗装を含む)が施されていること。
合成樹脂調合ペイント(通称SOP)など、密着力の弱い塗料や耐溶剤性の悪い塗料は、材料が剥離したり接着剤などの溶剤で塗料が溶けたりすることがありますので、使用しないでください。

セメント系	<p>モルタル下地 モノリシックコンクリート下地 プレキャストコンクリート下地 シンダーコンクリート下地 セルフレベリング下地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 不陸・ざら目・突起物がなく表面が平滑であること。 ● 粉ふき・ひび割れなどがないこと。 ● 十分な強度があること。 ● 十分に乾燥していること。 (厚みや環境によって乾燥時間は異なります。) ● 油・塗料・ワックス・塵埃などがないこと。
-------	---	--

土間コンクリート床下地

土間に直接コンクリートを打設した下地であるため、**土間から湿気**が上昇し、床材を張り付けた後に、床材裏面に湿気が留まって床材にフクレが生じたり、継目から剥れたり、目地からコンクリートの成分がにじみ出ることがあります。土間からの湿気上昇を防止するために、防湿シートを床下に付設したり、防水層を設けることがあります。ただし、防水・防湿層を設けたコンクリート下地は**表面からのみの乾燥であるため、通常の2倍～3倍の乾燥期間が必要**です。また、山際・低地では、施工する時は乾燥していても梅雨期に湿気が上昇する場合があります。床材を施工する場合は、**下地の乾燥と建物の立地状況を必ずチェック**し、耐湿材料の選定などを検討してください。

デッキプレートなどの型枠上のコンクリート・モルタル床下地

デッキプレートに直接コンクリートを打設した下地であるため、コンクリート・モルタルの**乾燥は表面のみであり、通常の2倍～3倍の乾燥期間が必要**です。湿気のチェックを行い、下地を十分に乾燥させてから施工してください。

シンダーコンクリート(押えコンクリート)下地

防水層の上に敷設される押えコンクリート(軽量コンクリート、気泡コンクリート)はいわば防水層でできた水槽の中に置かれた状態にあるため、**大量の水を含んでいます**。完全に乾燥させるのが難しく、そのまま床材を張り込むと、床材で蓋をした状態となり、残った水分の蒸気等が逃げ場を失いやがて床材を持ち上げ**膨れを起こします**。通気出来る下地層を設けてから施工する必要があります。また押えコンクリートは直射日光を浴びて**夏場はかなり膨張**するため、壁側の防水層の立ち上がり部を破壊させないよう、伸縮目地を設けた構造となっています。**目地の上に床材を張り込むと目地に沿って浮きや亀裂**を生じますので、目地を跨がずに床材を張り付けてください。

コンクリート伸縮目地・クラックのある床下地

セメント系下地のコンクリート・モルタルは**長期間にわたって乾燥収縮**するため広い面積では**ひび割れが発生**します。そのひび割れを定期的に発生させるために**誘発目地を設けたり伸縮目地が設けてあります**。これらの目地・ひび割れの隙間は温度の変化によっても変化しており、また**下地の湿気もひび割れを伝って多く上昇**しています。これらの目地・ひび割れの上に床材を張り付けると**目地・ひび割れに沿って浮きや亀裂**を生じることがあります。床材を施工する場合は目地・ひび割れは樹脂の注入、樹脂モルタルで補修し、平滑に仕上げてください。**伸縮目地など下地の動きが大きい場合は目地手前**で床材を仕上げ、**目地を露出**させてください。

プラスチック系	<p>ウレタン下地 エポキシ樹脂下地 不飽和ポリエステル樹脂 レジンテラゾータイル ビニル床タイル ビニル床シート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 既設床材を剥がしてから床材の張り付けが基本です。 ● 既設床材が下地に十分接着していること。 ● 不陸・突起物・浮き・欠損がなく表面が平滑であること。 ● ワックス・汚れを除去すること。 ● 樹脂の成分によって接着剤の強度が十分に発揮されない場合がありますので、事前に接着テストを行い確認してください。接着力が弱い場合は、サンダー掛けを行い表面を荒らす必要があります。
---------	---	--

ビニル床タイル下地

ビニル床タイル下地にビニル床材を重ね張りした場合、床タイルの目地から飛散していた湿気が、重ね張りしたビニル床材によって飛散できなくなり、**湿気が床材の裏に留まって床材が膨れ**ることがあります。重ね張りの場合は下地からの湿気を十分確認してください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

下地水分率チェック方法

下地の水分が十分に乾燥するまで養生が必要です。必要に応じて下地の湿気をチェックしてください。

<下地湿気判定方法の例>



高周波式水分計 (株式会社化学研究所 HI-520) を用いた測定

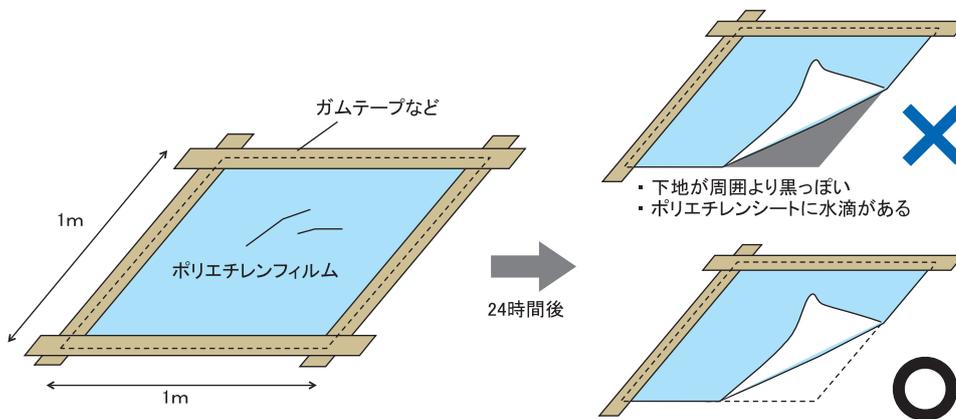
平坦で直射日光や通風、及び下地表面に付着物のない場所を選んで測定する。

- ① 選択ダイヤルを「Dモード」に合わせる。
- ② 厚さ補正ダイヤルを「40」に合わせる。
- ③ 湿度補正ダイヤルを「AUTO」に合わせる。



ポリエチレンフィルム法

試験方法	判定基準
1m×1mのポリエチレンフィルムの周囲をガムテープで密封し、24時間放置後の様子を観察する。	水滴が付いたり、黒く変色したりしないこと。



従来の下地水分指標	高周波式水分計読み値	ポリエチレンフィルム法	工法の目安
8%以下	440未満	変色なし	一般工法
8~10%	440以上 620未満	輪郭がはっきりしていないが黒っぽくなっている	耐水工法 特殊耐水工法 プールサイド工法
10%以上	620以上又はFFF*	変色や水滴がある	施工不可

※FFFは測定不能の意味
 ※HI-520-2にも適用可能です。
 ※上記確認方法は参考であり、各現場に適切な方法によりご確認を行ってください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

石・陶磁器系	大理石下地 花こう岩下地 磁器タイル下地	<ul style="list-style-type: none"> ●不陸・突起物なく表面が平滑であること。 ●十分な強度があること。 ●汚れ、塵埃がないこと。 ●樹脂モルタルで目地詰めてさらに上塗りが必要。
--------	----------------------------	---

アスファルト系	アスファルト系防水下地 アスファルトコンクリート下地	<ul style="list-style-type: none"> ●直接接着剤で床材を張り付けるとアスファルト成分が床材に移行して床材を黒く変色させ、更に膨れも生じますのでアスファルト下地材を撤去した後、新しくコンクリート下地を打設するか、もしくはアスファルト下地を撤去後、下地補修材を5mm以上の厚みで上塗りする必要があります。 ●厚塗り、塗膜強度については下地補修材のメーカーにお問い合わせください。
---------	-------------------------------	--

木質系	耐水合板 フローリング アビトン合板	<ul style="list-style-type: none"> ●段差がなく平滑であること。 ●ワックス・油脂分を除去すること。 ●目地すき・たわみがないこと。
------------	---	--

木質下地にビニル系床材を張り付けると、床下からの湿気を通さなくなるため、**下地の腐食を早めたり、湿気を吸収して下地が突き上げたり**します。床下の通気を十分確保してください。また床下地の裏面、根太に防腐剤、防虫剤を多く塗布してあると、**クギ山、目地から防腐剤がしみ出し床材を変色**させる場合があります。防腐剤のしみ出しを防いでから施工してください。

金属系その他	鉄板 ステンレス板 アルミ板	<ul style="list-style-type: none"> ●サビがないこと。 ●油類の汚れがないこと。 ●溶接・切断部の凹凸がなく、平滑であること。 ●十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)がなされていること。 ●塗料の種類によっては、接着剤中の溶剤により塗料が膨潤する場合があります。
---------------	---	---

金属下地に床材を張り付けると、床材の目地・端部周辺から水が入り、**下地が腐食して床材にフクレ・変色**を起こす場合があります。**下地に防錆処理**を行ってください。また下地表面の塗料(ペンキ等)が接着剤に含まれる溶剤で溶け剥れることがあります。十分に確認してから施工を行ってください。

床暖房下地

施工前後にシートの温度が急激に変化しないよう、下記のどちらかの方法で施工してください。

- ①床暖房を稼働して施工する場合(実際の使用温度下での施工)
1週間前から床暖房を稼働させ、施工を行ってください。施工後は、床暖房を稼働させたまま養生を行ってください。(最低1週間)
- ②床暖房を停止して施工する場合
施工前日に床暖房を停止し、床面が室温と同じになった状態で施工を行ってください。施工後も床暖房は停止した状態で養生してください。(最低1週間)

使用する床材は施工する予定の室内で保管し、室温に馴染ませてから施工してください。

接着剤の種類によっては暖房床からの熱によって軟らかくなり所定の接着強度が出ないことがあります。また、コンクリート内の水分の湧出によって、不具合が発生することがありますので、必ず専用副資材を使用してください。

コンクリート内埋設タイプ

断熱材を敷き詰めたコンクリートスラブの上に1/2~1インチ程度の発熱体(温水パイプ、発熱線等)を一定間隔にセットして普通コンクリートで埋設したもの。

- 下地の乾燥は充分であるか。
- 暖房床の空運転*を施工7日以上前から実施し、下地にとじ込められていた水分を放出させること。
- 下地の養生と暖房床の空運転を同一視しないこと。
- 下地が未養生のまま空運転するとコンクリートにクラックが生じることがある。
- 下地は不陸や突起、凹凸がなく平滑であること。
- 所定の接着強度をうける下地強度をそなえているか。
- 接着強度を妨げるような塵埃、モルタルかす、油等が付着していないか。
- クラックが発生した時には、エポキシ系注入剤による補修を行うか、またはクラックの部分にV字型に刻んだ上で樹脂モルタルで補修します。

※ 暖房床空運転の目的

床施工後暖房を始めるとコンクリート内に閉じ込められていた水分が急激に湧出してトラブルをおこす事があるため、床施工の前に運転をして下地の安定をはかるのを目的としている。

パネルヒータータイプ

断熱材を裏打ち発熱体を組み込んで塩ビ鋼板やアルミ板で被覆を行いパネルとし、そのパネルを敷き詰めパネル相互を結線し、制御するシステムである。

- 床面のたわみ、単振等による下地の障害はないか。
- 目違い、接合部における突起、段差がなく平滑であるか。
- 接着を妨げるような塵埃、油等が付着していないか。
- 暖房床の空運転を施工前7日以上使用状態の温度で行ないパネル各自の安定がはかられているか。

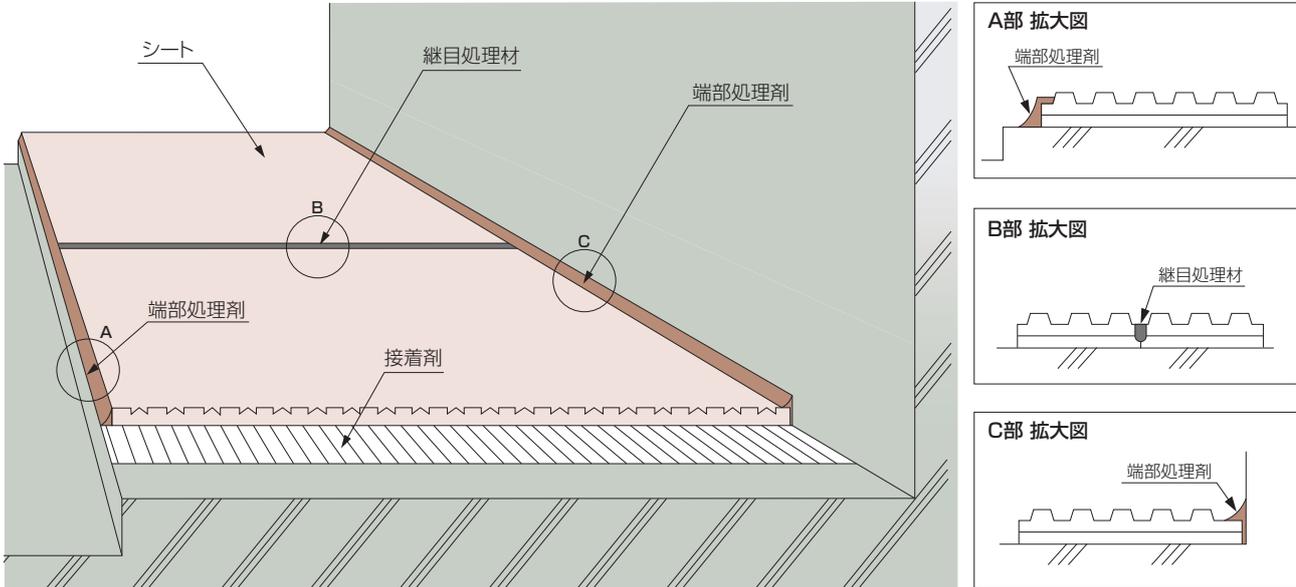
接着剤の種類によっては暖房床からの熱によって軟らかくなり所定の接着強度が出ないことがあります。また、コンクリート内の水分の湧出によって、不具合が発生することがありますので、必ず専用副資材を使用してください。

試験データ P.203
法規関連 P.226
工法・下地 P.236
施工手順 P.255
接着剤・副資材 P.315
副資材 品番一覧 P.330
メンテナンス 注意 P.335

2.工法の確認

タキロンシーアイの床材製品は、過酷な屋外での使用にも耐えるすぐれた耐久性を持っています。タキロンシーアイでは、この特長を最大限に生かす優れた専用接着剤、副資材、工法を開発。独自の工法を確立し、数多くの実績をもっています。

標準納まり図



※標準納まり図は一例であり、実際の納まりとは異なる場合があります。

工法	用途	接着剤	継目処理材	端部処理材
一般工法	屋内など水を使用しない場所など	タキボンド#607 タキボンド#701	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
耐水工法	直接雨がかりのない場所・湿気の恐れのある場所など	タキボンド#601 タキボンド#607 タキボンド#701	床溶接棒 タキシール#600 エポシール	タキシール#600 エポシール
特殊耐水工法	雨がかりがある場所・水を大量に使用する場所など	タキボンド#601 タキボンド#607 タキボンド#701	床溶接棒 エポシール	タキシール#600 エポシール
プールサイド工法	プールサイドなど特に大量に水を使用する場所など	タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	エポシール
継目止水工法	プールサイドなど特に大量に水を使用する場所など (屋内プールサイド)	タキボンド#601	ジョイントシートS +タキボンド#620 +床溶接棒	エポシール
テープ工法	縞鋼板下地、押出成形セメント板下地など	専用両面テープ + 専用プライマー	詳しくは P.244,P.247 をご覧ください	詳しくは P.244,P.247 をご覧ください
床暖房工法	床暖房下地にタキストロンを施工する場合 (コンクリート内埋設タイプ) (パネルヒータータイプ)	タキボンド#601	床溶接棒	エポシール

継目処理

溶接工法

床材の継目部は隙間なく仕上げ、U字型に溝を切り、タキストロン床溶接棒を熱風溶接機を用い、溶融しながら断面を熱風溶接します。

端部処理

シール工法

排水溝、壁際などの端部からの水の浸入を防止し、床材のめくれ、剥がれを防ぐために、耐水性にすぐれたタキシール#600・エポシールなどで端部処理を行います。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335